

一般会計補正予算 (第2号～第5号)

5月の第2回臨時会に提案された令和4年度補正予算（第2号）および同（第3号）では、自治会活動の再開を支援するための感染対策物品の購入、小中学校の修学旅行での感染防止対策への補助、ひとり親世帯への子育て世帯生活支援特別給付金の増額など、2議案ともに全員賛成により原案可決されました。

また、第2回定例会初日に提案された補正予算（第4号）では、1人1台端末の活用を円滑にするため、GIGAスクール運営支援センターのヘルプデスク事業への参加、個人ボランティアによるTNR活動の支援などの費用が計上され、賛成多数により原案可決されました。

さらに、第2回定例会最終日に提案された補正予算（第5号）では、社家コミュニティセンター内の空調設備故障に伴う改修工事の費用が計上され、全員賛成により原案可決されました。ここでは、補正予算（第4号）の主な審査の概要をお伝えします。

問 電子化することにより令和5年度から変更される、市税の納付手続きの内容を伺います。

答 現在使用している市独自のバーコードを生かしつつ、固定資産税と軽自動車税についてはQRコードをつけて電子納付ができるように変更します。

問 ヘルプデスク事業の詳細を伺います。

答 1人1台端末にトラブルが発生した場合に、家庭学習中の児童生徒や保護者、学校、市教育委員会からの問合せに対応していただくものです。

問 TNR活動の支援として購入する、マイクロチップスキャナーについて伺います。

答 マイクロチップスキャナーは、個人ボランティアが飼い主のいない猫を捕獲した際、猫の中にマイクロチップが埋め込まれているか確認し、外飼いされている猫を野良猫と誤って去勢手術をすること防ぐために使用します。

市政に関する一般質問の概要

6月13日、14日、15日に議員19名が市の考えをただしました。主な質問、答弁の要旨を紹介します。

一般質問では、市議会議員が市長などの執行機関に対して、海老名市の行政事務全般にわたってその執行状況や今後の方針などについて説明を求め、議員の考えを表明するなど、よりよい市政を目指してさまざまな議論が行われています。

今回は、市民に身近な問題を中心に、47項目の一般質問がありました。詳しい内容は会議録でご確認ください。

会議録は市役所1階の情報公開コーナー、中央図書館・有馬図書館でご覧いただけるほか、インターネット上で公開しています。

※第2回定例会から、一般質問の日数が従来の2日間から3日間となりました。

＜会議録の閲覧検索＞ 市のホームページから「海老名市議会」→「会議録検索」

また、一般質問をはじめ、本会議の様子はインターネットで録画配信しています（これは海老名市議会の公式記録ではありません）。

＜本会議の録画配信＞ 市のホームページから「本会議中継」→「本会議ライブ中継」、「委員会中継」もご覧いただけます。 録画配信はこちらから▶



都市間交流事業について

政進会 森下 賢人

問 海老名市都市間交流協会は、平成25年に発展的に解散した市観光協会の事業を引き継ぎ、姉妹都市の白石市、登別市、ほか災害協定を結んだ各都市との交流窓口としても機能しています。これまで着実に実績を上げてきた中で、コロナ禍によって事業の中止がやむなく続いている都市間交流事業の方策について伺います。

答 （市長）：令和2年度以降ほとんどの都市間交流事業を中止せざるを得なくなりましたが、今年度は5月8日から約60名が参加した登別市市民視察を行い、コロナ禍においても連携が確認できました。市民視察はじめ少年野球などのスポーツ交流や小中学生の教育交流などの人的交流と、えびにやハウスや各イベントで特産品を販売する観光物産事業などを都市間交流協会を通じて支援していますが、協会と連携して、可能な限り顔の見える交流事業に改めて取り組むとともに充実を図りたいと考えています。

問 災害協定を結んでいる都市との交流状況を伺います。

答 （市民協働部長）：茨城県那珂市、愛知県東海市、羽幌町はえびな市民まつりに参加いただきました。今年度は群馬県太田市とのスポーツ交流を行う予定ですが、今後この交流を参考にしつつ姉妹都市交流とすみ分けをした上で、交流の拡大に向けた検討を進めたないと考えています。

問 都市間交流に期待される効果と課題を伺います。

答 （市民協働部長）：交流で生まれた絆をさらに広げることで、災害など緊急時に支え合える基盤が整っていくものと認識しています。課題は人口や財政規模の違いと、人的交流時のコロナ禍対策などが挙げられると思います。



海老名市

トライアングル交流



白石市
登別市